

令和3年度版

環 境 白 書

沖 縄 県

環境白書の発行に当たって

私たちの暮らす沖縄は、豊かな生態系を育むサンゴ礁が広がる海域に散在する大小 160 の島々からなり、大陸が分岐した地史の中で生き物が独自の進化を遂げ、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナ等多くの固有種を含む希少な動植物が生息・生育する生物多様性に富んだ地域です。令和 3 年 7 月にはその普遍的価値が認められ「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録されました。



その一方で、島しょ性に基づく地理的条件から環境負荷に脆弱であることや、広大な米軍基地の存在が、環境に様々な影響を与えているという特徴があり、各種開発や経済活動等の進展による自然環境の破壊や航空機騒音等の基地から派生する問題、廃棄物の適正処理やマイクロプラスチックを含む海岸漂着物への対応など、様々な課題に直面しています。また、昨年 10 月から小笠原諸島、福岡ノ場海底火山噴火に由来するとみられる軽石が沖縄周辺に漂着し、漁業、観光業、離島航行等へ多大な被害をもたらしているほか、サンゴ礁生態系への影響が懸念されています。

このような中、沖縄県では、人類の生存基盤に影響を及ぼすおそれのある気候変動問題に対処するため、2050 年度「温室効果ガス排出量実質ゼロ」を目指し、温室効果ガスの削減に取り組む「緩和策」と気候変動に備える「適応策」に一層取り組むことを決意する「沖縄県気候非常事態宣言」を行い、併せて「第 2 次沖縄県地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

さらに、本県では、これまで取り組んできた「沖縄県環境基本計画」「第 2 次沖縄県環境基本計画」に継ぐ新たな 10 年計画である「第 3 次沖縄県環境基本計画」の策定に着手し、社会情勢や環境の変化に対応した計画となるよう取り組んでいるところであります。

環境問題は、行政のみではなく、県民一人ひとりが大きな問題として受け止め危機感を持ち、日常生活から環境に配慮した行動をしていくことが大切です。

沖縄県としましては、SDGs の精神に則り、国や市町村と連携し、持続可能な循環共生社会の構築に向け引き続き取り組んでまいります。

本書は、主に令和 2 年度の本県における環境の現状と実施した施策についてまとめたものです。皆様の環境への関心と理解をより深め、環境保全活動の一助となれば幸いです。

令和 4 年 3 月

沖縄県知事 玉 城 デ ニ ー